

## 平成26年度 第6回 桑名市子ども・子育て会議 議事録

日 時	平成27年1月29日(木) 13時～14時ごろ
場 所	くわなメディアライヴ 多目的ホール
出席委員	伊藤香、伊藤直和、大橋了子、奥田聖人、小竹広行、下間賢了、高橋恵美子、津田浩二、野口典子(◎)、濱内洋孝、松岡典子(○)、松岡初文、水谷秀史、水谷美保、横山悦子(敬称略、五十音順)(◎:委員長、○:副委員長)
傍聴人数	5人
会議次第	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 開会</li><li>2. 議事<ol style="list-style-type: none"><li>(1) 桑名市子ども・子育て支援事業計画の最終案について(資料1-1、1-2)</li><li>(2) 計画の周知及び推進について(資料2)</li></ol></li><li>3. その他</li><li>4. 閉会</li></ol>

## 1. 開会

(野口委員長)

こんにちは、今年度第6回ということで、考えてみたらここまで2か月に1回ぐらいのスピードでやってきたわけですが、多分、皆さんにとってみると、まだまだ議論尽くせないところは多々あると思いますが、なんとか形にさせていただいたと思います。ということで、今回が今年度の委員会としては最後にしたいと思っておりますので、よろしくご審議をお願いいたします。

議題に入る前に、どんな経緯でここまでに至ったかの確認をさせていただきたいと思うので、計画策定の流れについて事務局から説明をお願いします。

※計画策定の流れについて事務局説明

(野口委員長)

それでは議題に移りたい。

## 2. 議事

(1) 桑名市子ども・子育て支援事業計画の最終案について（資料1-1、1-2）

※資料1-1に基づき事務局説明

(松岡初文委員)

3頁の6について、乳児健康診査の診断の中身というのはどんなものなのか、どういうことを言われたのか、わかれば教えてほしい。

(事務局)

いただいたご意見についてはそのとおりに載せているので、中身の記載はなかった。

(野口委員長)

それでは資料1-2についての説明をお願いしたい。

※資料1-2に基づき事務局説明

(野口委員長)

ご意見等あるか。

(津田委員)

No. 26に意見を出させていただいたが、保育料については国の方から1号認定、2号認定、3号認定、一市一制度、つまり公立私立に関係なく一つの制度にしろという指導が市の方にきていると思っている。新しい制度の趣旨から言うと、国が示した水準から出発して、市がどれだけの公費をつぎ込んでいけるかということが正しい捉え方だ

と思う。市としてはしっかりと、今後、国の示した基準のうち、桑名市の公費を使って、これだけ保育料を抑えますよということを示して、市民の方にはしっかり理解していただくようにしてほしい。

(野口委員長)

どういう形で地域とできるかというところだが、ご意見を議事録に残しておくということがひとつ、「応能負担の原則に基づき、現行の保育料の水準等“も”」という“も”がどう生きてくるかということになると思うが、今のご意見を議事録に残しておいていただきたい。

それでは、修正案を皆さんにご承認いただいて、この冊子が最終案となるが、何かご意見等あるか。

ないようなので、ご承認していただいたということにして、市長の方に提案させていただく。それでは、議題（２）に移りたい。

(２) 計画の周知及び推進について（資料２）

※ 周知について事務局説明

(野口委員長)

ご意見等あるか。

(濱内委員)

リーフレットの右上にこの計画がめざすものがあるが、ぱっと開いたときに人は左上から右に行って、左下、右下とZの形に目を通すので、逆になっていて違和感がある。

(事務局)

ぱっと見たときというのは大変重要だと思うので、参考にさせていただく。

(野口委員長)

今日で最終としたいと思っているので、これについてはまたおそらく少しできあがったところで皆さんにご意見いただくことになると思うが、これのために委員会を開くのではなく、最終的には皆さんのご意見をいただきながら、私なり事務局の方にお任せいただきたい。それでは推進について説明をお願いしたい。

※推進について事務局説明

(野口委員長)

何かご意見等あるか。

(松岡副委員長)

今の事業推進のところにもあったとおり、PDCAサイクルで評価をしていくということは改めて強調していくべきかなと感じた。

(野口委員長)

せっかくなので、ここまでで言い残したことや聞いておきたかったことなど一言二言いただきたい。

(横山委員)

リーフレットを開いたところのイラスト又は写真のところは、応募いただいたお子さんの写真ではなく、具体的な事業を写してある写真を載せていただきたい。

(事務局)

リーフレットの中身の写真などは各事業のものを掲載し、表紙のタイトルの上下は応募いただいたお子さんの写真を掲載しようと思っている。

(水谷美保委員)

リーフレットを開いたときに、順番が身近なものからだんだんと社会化していった方が取り組みやすいかなと思うので、「お父さんの子育てを推進」を一番上にして、その次に「子どもの育ちを支える」にするなどした方がいいかなと思う。

(松岡初文委員)

リーフレットを全戸配布するのは結構なことだと思うが、広報紙と一緒に配るのか。他のものと一緒に配られると、自分としてはいっぺんに来てもあまり見ないかなと思ったりしてしまうので、考え方はそれぞれあると思うが、これだけ配られてはどうか。

(濱内委員)

リーフレットのことで、さっき水谷美保委員が言われたように、左上から下りていくとして、子供の成長の流れに合わせた順番にした方がわかりやすいのではないかな。

また、全戸配布された家に、例えば子育てから一線を退いている老夫婦しか住んでいない場合に、その人たちにお願ひできることを、ぱっと見たときに一言、これ自分のことだなとわかるようなものがあると、もうちょっといいかなと思った。

あと、この委員会に出させていただいて、桑名市の方ががんばってやっけていただいているのがよくわかるので、154頁にある表彰されたことももっとPRしていいと思う。リーフレットの中にも盛り込むと、市民の方にも頑張っているとわかるのではないかな。

(津田委員)

具体的に書かれているところと、抽象的に書かれているところがあるので、支援を受

ける子育て世代がこれを見て、もう少し詳しく知りたいと思えるリーフレットにしたい。  
ただきたい。

それから、「豊かな心、確かな学力を育みながら差別や偏見がなくなる人権教育を進めます」というのは逆なのかなと思うので、文言を少し考えていただきたい。豊かな心も確かな学力も重要なので、できれば分けて出して、例えば確かな学力とはこういうもので、これを挙げていくんだということを書いていただけるといいと思う。

(高橋委員)

計画案の130頁の推進体制というところで、市民一人ひとりが推進をするためにもっと具体的に、どういうところに手をつければいいのかを出していかないと市民の方々の参加を求められないと思うので、さまざまな計画等を勉強するところをもっと打ち出していくといいと思う。

(下間委員)

一つは「お父さんの子育てを推進」について、父親のいない家庭も多くなってきているので、お父さんを限定した形で表記することは好ましくなく、気をつけなければいけない。「お父さん」を「家族ぐるみ」として、説明文の「お父さん・お母さん」に「など」をつけてはどうか。

もう一つは「地域のネットワークづくり」の欄で、「ネットワーク会議を開催します」とあるが、桑名市子ども・子育て支援事業計画の中で具体的にどのように示されているのか分からない。

(小竹委員)

リーフレットで見開きの左側のページで、お父さんの子育てを推進のところと次代の親づくりのところが、イラスト又は写真と文章が一緒に囲ってあるのは、その他のものと何か違いがあるのか。

あと、先ほど濱内委員からもあったが、東京で表彰されたことをもっと皆さんに知ってもらった方がいい。

(奥田委員)

この1、2年だけのことじゃなく、今後どんどんつながっていくということを考えていかないといけないと思うので、130頁の計画の推進体制にしても、今後こういう会議をやっていくとか、こういうところで告知していくというアクションなどをどのような形で市民の方へお知らせしていくかを具体的にしておいた方が皆さん取り組みやすいのではないかと。

あと、リーフレットを全戸配布するとのことだが、こちらの計画書は配布するのか。  
(事務局)

ホームページで公表する。

(奥田委員)

公表されるということだが、リーフレットでつながっていた方がいいのかなど。QRコードだけでなく、ケータイを使える人もいれば使えない人もいるので、例えば問い合わせ先はここですよとか、ホームページのここに問い合わせると出ますよと2, 3点載せてあげると、より親切ではないかと思う。計画がありますということプラスこういうことをやりますよということをどこかでつながるようにした方がいいし、情報を生かせるようにしていただくとわかりやすいかなと思うので、よろしくお願ひしたい。

(大橋委員)

リーフレットの相談窓口のところをどれだけ詳しく書かれるのかなと思っていて、電話番号は載せられると思うが、例えば市役所の何階にあるとか、そういうところまで詳しく載せていただけるとありがたい。

(伊藤直和委員)

広報紙と一緒にリーフレットの配布をされると思うが、広報紙に入ってくるとあまり読まない方が多いので、松岡さんが言われたように、何か別の配布方法も考えてほしい。

(伊藤香委員)

会議を通じて、事務局が熱心に対応していただいていると感じとれた。

リーフレットについては、例えば、ご意見を聞いた方たちの質問が出てきたことに対して、その答えがどこにあるのか一般市民にはなかなかわからないと思うので、パブリックコメントをいただいたように、回答をホームページ上などに掲載すると、みんなに意見にちゃんと対応してもらっていると感じられるので、そうできるように、リーフレットからも入れるように表記してほしい。

(水谷秀史委員)

保護者が幼稚園や保育園を選ぼうと思ったとき、あるいは子育てをしようと思ったときに一番気になるのは金銭で、これらについて我々の前で特に見せなかったということについては一つの危惧を持っている。市民の声が一体どこへどう通じているのかの道筋が、その部分においてはつくれなかったと認識している。

そして広報のことが述べられたが、チャンスをつくるというのはまさにそうで、ネットであったり印刷物であったり、いろんなチャンスをつくる必要があるが、情報という

のは興味がある人しか関心がないので、子どもができました、生まれました、幼稚園や保育園を探している、学校を探している、引っ越しをするといったその瞬間に、いかに我々が決めたこと、決めようとしていることが届くかということが課題になるので、それぞれの窓口の方が認識を持って、一人ひとりの市の職員が説明できること、次につなげることができる、そういう体制づくりが次のステップとして出てくるのではないかと考えている。

金銭的なもうひとつの事柄については、利用者負担について棚上げ状態がある。それについてはこの場では協議しないと決定しているので、市民の皆さんから見た利用者負担が、誰の手によって、どこで討論されて、なんで決められているのか、この冊子には載っていないから言われるということを指摘させていただいて、感想とさせていただく。  
(水谷美保委員)

お母さんたちが、家庭もどんどん変わってきているので、今はこうであっても期間までには違うかもしれないとすごく感じる。皆さん今後も続けられると思うが、引き続きよろしくお願いします。

(野口委員長)

今日は副市長さんにも来ていただいているので一言いただきたい。

(田中副市長)

皆さん本当にどうもありがとうございました。毎回出席することはできなかったが、毎回きちんと事務局からご報告いただいています。皆さん精力的に議論されているのが伝わってまいりました。桑名市内の他の会議に比べても、委員の皆様全員参加していただいて、本当にいい議論をしていただいたと思っています、ありがとうございました。また、今回複数の方からご指摘ありました、にっぽん子育て応援団、実は事務局というより、皆さんが真剣に議論してくださった成果でありますので、私から感謝を申し上げたいと思います。特に野口委員長のすばらしい采配含め、委員の皆様方のご尽力の賜物と考えております。実は私も市長も、これ非常に大変なことだということで、市民の皆様も含め、しっかりPRしていかなければいけないと申し上げている。事務局が非常に遠慮がちで、今回も机上配布でご紹介させていただくというのはそういう趣旨であります。

制度的なことをございますけども、今回、社会保障・税一体改革の一環として、来年4月から子ども・子育て支援新制度が施行されるということになるわけでありまして。これは消費税の引き上げがなければ、従来の毎年の予算編成の中では考えられないことで

す。このために介護、年金、医療に加えて、子ども・子育て支援にも一定の財源が確保されたというのは、実は歴史的に見て非常に大きな転換点であります。今回10%への引き上げが延期されたということで心配していたが、政府の平成27年度の予算編成の中でも一定の他の分野からの採択ということでもあります。これは市町村である桑名市としてはこの枠組みをしっかりと有効に活用していく気持ちが必要だと思います。そういったことで、子育てしやすいまちづくりを一步一步進め、それによって、この桑名が子育て世代から選ばれるまちを目指す、これは市長もそのように考えていると思います。ただ、これまでの子ども・子育て支援制度もそうですが、この分野で地域包括ケアシステムとか、生活困窮者への支援も共通なんです。市町村が事業を運営する、そこに対して市民の皆様から意見を聞くという形になりました。地域の皆さんも、この場にいらっしゃる方もそれぞれの立場でみんな活動されているわけですね。そういった方々がされている活動に目を向けて、それを具現化し、皆さんに知っていただく、そうすることによって、そういった支援を必要としている方々だとか、そういう支援を申し出てくださる人を伝えていくことがネットワークづくりだと思います。そういったことから、これからも一言でいえば行政と市民との協働ということでございますけれども、市民の皆様力を借りながら、子育て世代以外の方も含めて、子育てに対する肯定的なイメージを広げて、地域全体で子ども子育てを支援していく地域づくりを目指していくことが大事だと考えております。

最後になりますが、改めて皆様のご協力に感謝を申し上げまして、私のあいさつと代えさせていただきます。ありがとうございました。

### 3. その他

(事務局)

連絡事項1つ目としてイベントの紹介をさせていただきたい。3月22日13時より桑名市民会館大ホールにて、計画策定記念と児童虐待防止の啓発を一緒にしたイベントを開催する。このパネルディスカッションには本委員会の松岡副委員長がコーディネーターとして、また、パネリストとして水谷美保委員にお願いをして開催をします。ぜひお越しいただきたい。

2点目として、にっぽん子育て応援団で桑名市が表彰されたということで紹介をさせていただいている。表彰にあたって担当職員が出席したが、副市長や当委員会の水谷秀史委員にも応援にかけつけていただいた。



3点目として、前回の会議の議事録を机上に配布したが、こちらについては何かあれば2月5日までに事務局までご連絡ください。その後、ホームページに掲載したい。また、本日の会議の議事録については後日郵送にて送付するので、ご確認をお願いしたい。確認をさせていただいた以降にまたホームページに掲載させていただく。

連絡事項としては以上だが、冒頭で説明したスケジュールの通り、今回で委員の皆様  
の任期中においては最後の委員会となった。来年度以降については計画の進捗管理が会  
議の主な役割となるが、現在、事務局で会議の構成を検討しているところなので、よろ  
しくをお願いしたい。事務局としても今後も全力で子ども・子育て支援を推進してまいり  
たいと考えているので、よろしくをお願いしたい。

(野口委員長)

皆さんに活発に会議にご参加いただいたということで、委員長として感謝を申し上げ  
たい。ただ、委員の皆様からいただいた宿題はまだまだ残っておりまして、この会議で  
取り扱えなかった事項もたくさんあります。そういう意味からすると、なかなか枠組み  
で計画案をつくるというむずかしさも感じております。正直申しまして、最初の頃、本  
当に1年で終わるのかと思っておりましたし、どんな計画にしていけばいいのか迷った部  
分もあります。確かに今、子育てを苦悩している方々への発信はとても大事なことです  
が、子育ての真っ最中の方々を地域の中で孤立させてはいけないと思って、この計画を  
受け持ったつもりしております。つまり親だけが子育てをしているのではなく、地域全体  
で子どもを産み、育てていき、そして子どもたちを大切にしていくということがこの計  
画のベースだと私は思っているもので、前後背景にこだわったのもそこにあります。もう  
終わってしまったから私たちには関係ないんだとか、あるいはもう自分たちの世代には  
縁がないんだという人たちをつくってはいけない、つまり子どもというのは次世代を担  
う大切な宝だという言葉が出てきたと思いますが、だからこそ私たちはこうやって子育  
てを支援していくんだという機運をつくらなければ、この計画というのは実際にはなら  
ないと思っております。ですので、みんなに知ってもらうこと、みんなに参加してもら  
うことという思いで、この2年間勤めさせていただいております。ただ、議事の進行と  
か委員会の進め方について言えば、十分ではなかったと思います。言い足りないこと、  
書き足りないこと、たくさんあると思いますが、こうやって期日に間に合うことができ  
たことを感謝申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

(事務局)

以上で会議の方を閉会させていただきます。本当にありがとうございました。

(以上)